

会務報告

◇ 委員会報告 ◇

● 大会委員会

◆2011年1月29日、東方学会本館2階会議室において、2010年度第5回大会委員会が開かれた。主な議題と審議内容は以下のとおりである。

1. 2010年度秋季大会の反省

大会アンケートの結果を参考に、秋季大会についての反省を行った。アンケートでは、学内の案内に関する事、パネルセッション会場での音響の問題などについて指摘があったが、特に大きな問題はなかった。今回初めて行った特別企画パネルについては好評だった。

2. 2011年度春季大会の進捗状況

開催校の東京国際大学の準備状況について報告があり、使用教室や当日のタイムスケジュールについて確認した。

3. 2010年春季大会発表者の選考

審査の結果、口頭発表31件、ポスター発表18件、パネルセッション6件、デモンストレーション4件の採用を決定した。審査後、不採用者コメント執筆の分担、コメントとりまとめ担当者、発表会場の割り振り案作成の担当者などを決定した。

4. 2011年度秋季大会以降の企画・運営について

1) 事務局および委員長より、2011年度秋季大会会場(米子コンベンションセンター)の視察報告があった。大会前日から1日目午前中にかけての企画の内容および進行状況について担当の松岡副委員長および河野委員より報告があった。また、大会1日目午後の「大会委員会企画パネル」の内容および進行状況について担当の河野委員より報告があった。

2) 2012年度春季大会の開催候補校について委員長より報告があった。2012年秋季大会についても東北・北海道地方で開催校の交渉を進めている旨、報告があった。

5. 2011年度委員改選について

委員長から次期委員候補者の検討結果について報告があった。春季大会期間中の大会委員会で現委員と次期委員の顔合わせを行う。次期委員の任期は2011年7月から2年間である。

6. 発表形態検討WGの設置 [第2回中間報告]

WGの久保田委員よりポスター発表、デモンストレーションなどの発表形態についての大会委員対象のアンケート結果について報告があった。次回の大会でも

アンケートを実施し、次期委員会で検討を続けることになった。

7. 今後の委員会日程

次回の委員会は、春季大会中の5月22日(日)に東京国際大学において行う。

(二通 信子)

● 学会誌委員会

3月5日(土)午後2時~5時早稲田大学にて委員会を開催した(出席13名、事務局員1名、欠席10名。)

148号の進捗状況、150号の特集の進捗状況の報告、次期委員候補(2011年7月~)、査読協力者(2011年1月~)の各リストを確認のあと、以下について審議した。

1. コラム「海外の学会から」に掲載する学会を選んだ。
 2. 149号の投稿論文(投稿総数45本(研究論文27、調査報告8、実践報告5、研究ノート5))を審査した。
 3. 第回林大記念論文賞の授賞者として今回は2名を推薦することを承認した。
 4. 来年度以降の委員会運営体制の見直しに関連し、査読の手順を一部変更することを承認した。
 5. 153号(2012年12月発行)を学会50周年記念特集号とすることについて、池上委員と次期体制で編集委員となる現委員5名が担当することを承認した。このため、当初特集号として予定されていた152号(2012年8月号)は特集号としないことになった。また、2013年度以後は毎年8月号を特集号とすることを再確認した。
 6. その他、科研費申請についてと学会メルマガでの情報発信について意見交換を行った。
- 次回委員会予定: 2011年6月25日(土)

(廣瀬 正宣)

● 研究集会委員会

I. 研究集会報告

1. 2010年度第8回研究集会(四国地区)

日時: 2010年11月6日(土) 13:00~17:00

会場: 鳴門教育大学講義棟

参加人数: 48名(会員17名、一般31名)

内容: 講演、研究発表6件

講演講師: 光元聰江氏(岡山大学)

題目「分かる教材・考える力・表現する力ー在籍学級での学習のためにリライト教材を使ってー」

講演では、日本語指導を必要とする児童・生徒に対する教科指導に関して、光元氏よりリライト教材を用いた指導についての説明が行われた。リライト教材の種類や作成方法といった技術的な側面のみならず、教材に対する「深い理解」や「わかるーほめられる」経験を通した子ども達の成長といったリライト教材によ

る指導の理念的な側面を理解することが出来た。講演後の研究発表は2会場に分かれて行われた。第1会場では、地域の日本語教室やEPAにもとづく外国人介護士の受け入れといった生活に密着した問題に関する発表が行われた。第2会場では、大学における留学生の受け入れおよび教育に関する発表が行われた。いずれの会場においても、発表内容にもとづく活発な討議が行われた。

(報告者：永田良太)

2. 2010年度第9回研究会 (東北地区)

日時：2010年11月13日(土) 13:00~18:00

会場：宮城教育大学

参加人数：69名(会員25名、一般44名)

内容：ワークショップ、研究発表7件

ワークショップ講師：野田尚史(大阪府立大学) 題目「コミュニケーションのための日本語教材を目指して」

今回の研究発表は、大学院生が4件、現職者3件で、3会場に分かれて行われた。内容は、オノマトペ、複合助詞、発音指導、ライティング、ビジネス日本語など多岐にわたり、3つの会場それぞれで発表者と参加者による活発な質疑応答が行われた。

ワークショップは、野田尚史(大阪府立大学)氏による「コミュニケーションのための日本語教材を目指して」。前半では、コミュニケーションのためと叫ぶつも、実際には「文型」に縛られている教材について考えるという活動を行った。参加者の積極的な発言が目立ち、教材に対するそれぞれの考えについて活発な意見交換が展開された。後半は、4技能別の教材をグループに分かれて実際に分析し、教材のあり方について考えるという活動であった。時間は約3時間確保していたが、参加者からは時間が足りない、もっと話し合いたい、という意見が聞かれるほどで、大変好評であった。

東北地区では、研究会を交流・情報交換の場とするために、広報活動を積極的に行っている。今回は、大学のみならず、日本語教室等からも多くの参加があった。今後も盛会となるよう、企画・広報ともに力を入れていきたい。

来年度の研究会は、秋田大学で開催する予定である。ワークショップの企画についてもほぼ決まっており、多くの参加者が集まるよう準備を進めているところである。

(報告者：高橋亜紀子)

3. 2010年度第10回研究会 (中国地区)

日時：2010年12月11日(土) 10:30~16:45

会場：岡山大学

参加人数：59名(会員36名、一般23名)

内容：講演、活動報告1件、研究発表6件

講演講師 庵功雄氏(一橋大学)

題目「『文法』を初級だけで終わらせないために—ボイスの場合を中心に—」

講演では、従来の文法シラバスの問題点を具体的に指摘され、受身と使役における新たな導入順序の提案がなされた。研究発表は、エンジニアの意識調査、日本語教科書の分析、作文に対する意識調査、ビジネス日本語、リライト教材、受身文の使用・非使用の調査についてのものであった。また活動報告は、EPAによる看護師候補者への日本語支援の報告であった。いずれも活発な質疑応答が交わされた。

(報告者：大久保理恵)

II. 会議記録

◆2010年度第5回研究会中央委員会(12月2日)

1. 2010年度WEB版実践研究フォーラム報告

2. 2011年度実践研究フォーラムについて

(1) 日時・会場

(2) 大テーマ

(3) パネルディスカッション

(4) ラウンドテーブル

(5) 委員の各担当係の決定

(6) 募集要項

3. 次期委員候補者選考

4. その他

伊東祐郎委員が2010年12月末日をもって研究会中央委員を退任した。

◆2010年度第6回研究会中央委員会(3月24日)

1. 2011年度実践研究フォーラムについて

(1) 発表者の選考

審議の結果、ラウンドテーブル13件、ポスター20件が採択された。

(2) 採択通知の確認

採択通知を確認し、不採用となった応募者に対しコメントを書く担当者等を決めた。

(3) 予稿集について

(4) パネルセッションについて

パネルセッションのおおまかな内容、講演者候補者を決定し、打診を開始することにした。

(5) フォーラム当日までのスケジュール

2. 2011年度会議日程

※次回会議予定

全体委員会 2011年5月21日(土)

中央委員会 2011年6月2日(木)

(堀井 恵子)

● 教師研修委員会

I. 研修実施報告

1. 授業実践から日本語のコースを見直す

—カリキュラム評価を活かすコース改善—

講師：田中統治（筑波大学人間総合科学研究科）

コーディネーター：古川嘉子・八田直美（教師研修委員）

開催日：2011年1月15日（土）10:00～17:00

場所：桜美林大学四谷キャンパス

参加者：27名

2. 教室活動のデザインⅣ

講座①「読解教育の可能性—“多読”の理論と教材作成—」 講師：小出慶一（埼玉大学）

講座②「言語教育におけるポートフォリオのデザイン」

講師：金孝卿（国際交流基金）

コーディネーター：齋藤伸子・ボイクマン総子（教師研修委員）

開催日：2011年2月12日（土）

講座1：10:00～13:00 講座2：14:00～17:00

場所：桜美林大学四谷キャンパス

参加者：講座①29名 講座②31名

3. ケース（事例）で学ぶビジネス日本語教育

—問題解決型討論活動のデザイン—

講師：池田玲子（東京海洋大学）・近藤彩（政策研究大学院大学）・神吉宇一（(財)海外技術者研修協会）

開催日：2011年3月5日（土）10:00～17:00

場所：政策研究大学院大学

参加者：39名

II. 2011年度の研修予定

1. デジタル教材作成（仮称）

開催日：2011年5月または6月予定

場所：神戸大学予定

2. 夏季集中研修（2日間連続講座）

※今年度は3つのワークショップを予定

開催日：2011年8月6日（土）・7日（日）

場所：(財)海外技術者研修協会（AOTS）予定

3. 日本語教育と社会 言語政策（仮称）

開催日：2011年11月予定

場所：東京予定

4. カリキュラム評価（仮称）

開催日：2012年1月予定

場所：東京予定

5. 専門日本語教育ワークショップ（仮称）

開催日：2012年3月予定

場所：東京予定

6. オンラインIT講座（仮称）

開催日：2012年1月～3月予定

◆昨年に引き続き、2011年度も「他領域との協働」「社会とのつながり」「実践と研究の往還」をコンセプトに、

海外・国内の現職日本語教師を対象とした教師研修事業を行う。また、現職日本語教師が受講しやすいように形式・内容を工夫し、日本語教師に求められる能力の開発と教師間ネットワーク作りの機会を提供するとともに、日本語教育分野の課題への対応を図る。

◆各研修の詳細は、決定次第、日本語教育学会ホームページに掲載するとともに、Eメール等で案内予定。

III. 委員会での討議事項

1. 2010年度第4回教師研修委員会（11月26日）

(1) 2010年度研修の報告

・専門日本語教育ワークショップ「介護」

(2) 2010年度後半の研修計画詳細

・カリキュラム評価

・教室活動のデザインⅣ

・専門日本語教育ワークショップ「ビジネス」

(3) 統計書籍について

(4) 次期委員候補者選考

(5) 次年度計画

①2011年度のコンセプト

②研修形態について

③2011年度研修計画

2. 2010年度第5回教師研修委員会（1月22日）

(1) 2010年度研修の報告

・カリキュラム評価

(2) 2010年度後半の研修計画の詳細

・教室活動のデザインⅣ

・専門日本語教育ワークショップ「ビジネス」

(3) 2011年度年間研修計画

(4) 2011年度の会議日程計画

(5) 2011年度夏季集中研修について

(6) 2011年度オンラインIT講座について

(7) その他

※次回会議予定

2011年度第1回教師研修委員会 4月9日（土）

2011年度第2回教師研修委員会 6月24日（金）

（嶋田 和子）

● 試験分析委員会

第8回試験分析委員会 2010年12月17日（金）

1. 旧試験小委員会との合同委員会に相当する会議について、各課より報告があり、原稿の修正について検討した。

2. 『平成21年度（2009年12月実施）日本語能力試験分析報告書』の原稿について話し合われた。

3. 報告書の原稿と要旨の提出スケジュールについて確認がおこなわれた。

第9回試験分析委員会 2011年2月5日（水）

1. 『平成21年度日本語能力試験分析報告書』の構成について話し合われた。

2. 『平成21年度日本語能力試験分析報告書』の要旨（聴解）について検討した。

3. 『平成21年度日本語能力試験分析報告書』の原稿について検討した。

4. 日本語教育学会における試験関連の委員会の必要性について意見交換がなされた。

試験分析委員会は、今回が最後の委員会であり、今年度をもって終了する。

(野口 裕之)

◇ 事務局からのお知らせ ◇

● 2011(平成23)年度会費納入のお願い

当学会の事業活動の円滑な推進を通して、会員各位の教育・研究に資すること、並びに、海外における日本語教育活動との交流や支援に寄与することが一層求められています。学会の活動の重要性をぜひご理解賜り、会費納入にご協力くださいますようお願いいたします。

ご送金の際は、必ず会員番号を通信欄に明記してください。

<会費納入方法>

- 郵便振込 00140-5-64631
- みずほ銀行新橋支店 (普)130-880757
- 現金書留
- クレジットカード支払(海外在住者のみ受け付けます。事務局にお問い合わせください)。

● 年度会費自動引落システムのご案内

日本国内に銀行口座等をお持ちの方々に、 「年度会費の自動引落システム」をご用意しております。全国の金融機関(銀行・信用金庫・信用組合・郵便局等)でご利用いただけます。詳しくは事務局会員サービス係(kaiin@nkg.or.jp)までお問合せください。

<年会費>

- 普通会員 10,000円(年額)
- 賛助会員 一口50,000円以上(年額)

● 住所等の変更について

次頁の書式にご記入の上、郵便または下記のいずれかの連絡先にお知らせください。

FAX	: 03-5216-7552
E-mail	: kaiin@nkg.or.jp

なお、メールアドレスを新設された方や、メールアドレスを変更された方は、①会員番号②氏名③名簿への記載の可否を、メールでお知らせください。タイトルは「学会員メールアドレス登録」としてください。電話での連絡は、ご遠慮願います。

● 学会誌メールアドレスについて

学会誌に関連するお問合せは、学会誌専用アドレスにご連絡ください。

学会誌専用 : gakkaiishi@nkg.or.jp